

科目1

精神保健福祉の理念

講義1

精神保健福祉の基盤となる考え方

到達目標

- 精神障害者の人権及び権利擁護、福祉に関する理念や考え方について、医学モデルとは異なる理念の重要性を含めて理解する

全ての講義で用いる法律等の略称

略称	正式名称
精神保健福祉法	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
障害者総合支援法	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
医療観察法	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
障害者雇用促進法	障害者の雇用の促進等に関する法律
障害者虐待防止法	障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律
障害者差別解消法	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
障害者権利条約	障害者の権利に関する条約

1)地域共生社会の実現と 精神保健福祉行政

精神保健福祉は 「精神保健」+「精神障害者福祉」の融合

精神保健福祉法 第1条(目的)

障害者基本法の基本的な理念にのっとり、
精神障害者の権利の擁護を図りつつ、その医療及び保護を行い、
障害者総合支援法と相まってその社会復帰の促進及びその自立と
社会経済活動への参加の促進のために必要な援助を行い、
並びにその発生の予防その他国民の精神的健康の保持及び増進
に努めることによって、**精神障害者の福祉の増進及び国民の
精神保健の向上を図ることを目的とする。**

行政機関の役割

- 福祉サービス供給組織が多元化するなかで、その供給組織では対応できない住民の多様な福祉課題に対して、**対人サービス**を行っていくこと。
- 住民の生活実態と福祉課題の把握、計画・政策の立案、管理運営、団体・サービス供給組織・機関に対する関係調整やネットワーク化を図ること(**アドミニストレーション機能**)である。



障害がある、ないにかかわらず、
女の人も男の人、お年寄りも若い人も、すべての人が
お互いの人権(私たちが幸福に暮らしていくための権利)や
尊厳(その人の人格を尊いものと認めて敬うこと)を大切にし、
支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会、
これを「共生社会」といいます。
この「共生社会」をともにつくっていかねばなりません。
社会には、さまざまな状況や状態にあたりする人々がいます。
「共生社会」は、さまざまな人々が、すべて分け隔てのなく暮らして
いくことのできる社会です。

地域の課題を解決するために、住民を含め多様な人たちが
支え合い、地域をともに創っていく「地域共生社会」へ

精神保健医療福祉領域での支援範囲

地域社会とのつながりの中にあり、
身体的にも、心理的にも、社会的にも
より良い状態を保ち充実した
暮らしを享受することができる者

長期にわたり日常生活
または社会生活に相当な
制限を受ける者

精神医療

障害者福祉

精神保健

精神疾患を有する者

日常生活を営む上での精神保健に関する課題を有する者

国民全般

精神保健福祉行政が目指すこと

地域共生社会
の実現

精神保健福祉の
基盤となる考え方



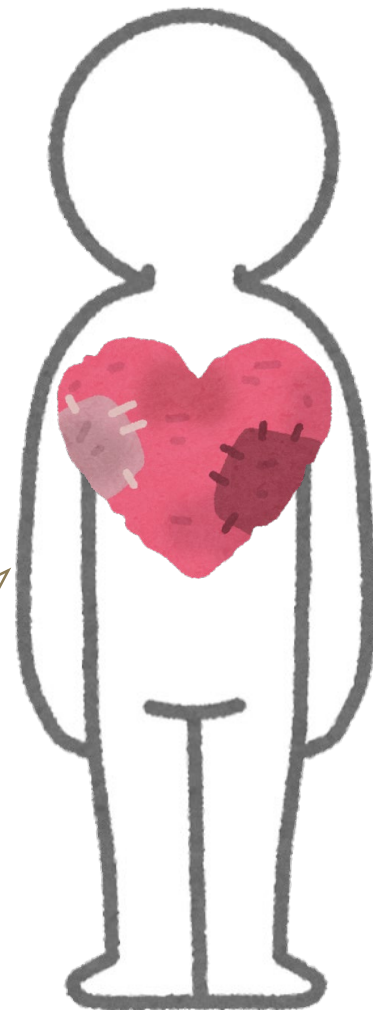
すべての人々が地域でともに暮らし、**誰一人**取り残されない社会の
「**誰一人**」の中に、**精神障害者や日常生活を営む上での精神保健に
関する課題を有する者**が含まれている社会の実現

2)精神保健福祉に関する 基本的な考え方

精神保健の課題(＝メンタルヘルス課題) を有する者の一例

長らく自宅に引きこもって外出ができず、
どうしていいのかわからないでいる

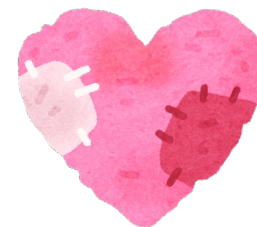
虐待や暴力の被害を受けてしまっている、
加害してしまうほど気持ちが追い詰められている



死んでしまいたいと思うほど経済的・社会的に困窮している

子育てあるいは介護で誰からの協力も得られず心身ともに疲れ切っている

メンタルヘルス課題とは



メンタルヘルス不調・・・精神的健康が損なわれている状態



生活のしづらさ・・・生活するうえでの困難さ、生きづらさ



支援や制度が行き届かず、取りこぼされてしまう



【ウェルビーイング】

精神疾患の有無にかかわらず、地域社会とのつながりの中にあり、身体的にも、心理的にも、社会的にもより良い状態を保ち充実した暮らしを享受することができる

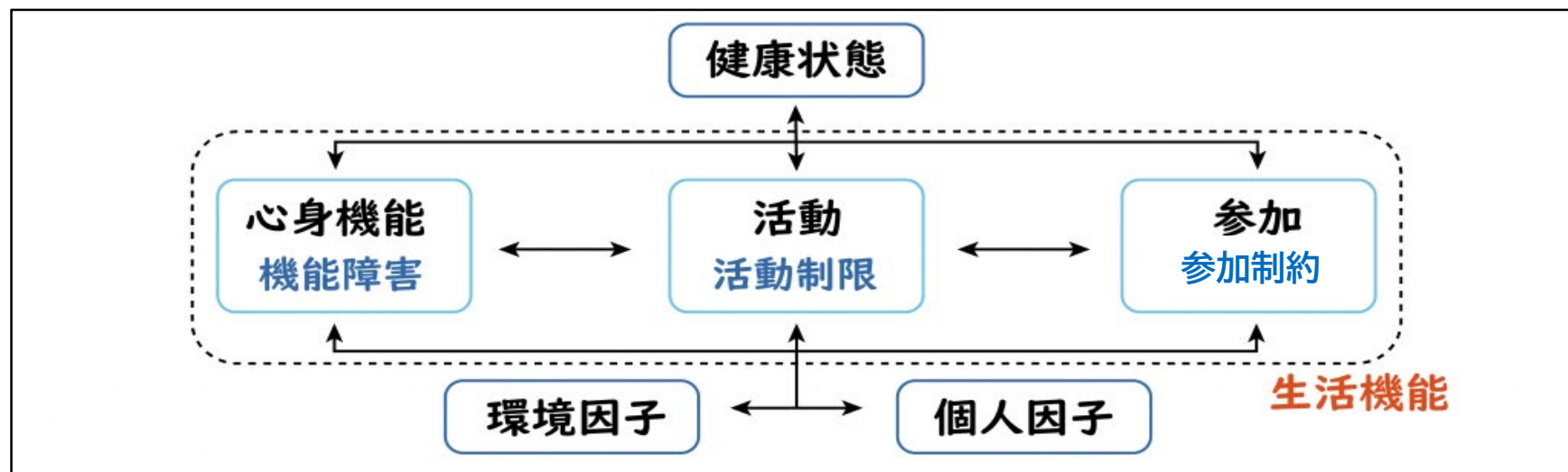
社会から排除・孤立させられやすい精神障害者

精神疾患・精神障害の特徴

- 精神疾患は、脳の機能障害等により感情や行動に影響が表れる治療や療養が比較的長期間に及ぶ
- 精神疾患の影響による判断能力の低下などから、日常生活や社会参加に困難をきたしやすい
- 本人にも周囲にもみえにくく、一目では生きづらさがわかりにくい
- 人間関係など周りの環境の変化に対応することが困難

あらゆる生活のしづらさの原因が精神疾患の影響と解釈されてしまう

障害は精神疾患だけによって生じるものではない



(ICF:生活機能と障害の国際分類)

心身機能 身長・体重、健康状態等に伴う認知機能、身体機能の状況

活動 日常的な生活動作(ADL・IADL)

参加 地域とのかかわり、人生の楽しみや社会での存在を実感する機会

環境因子 家族等の人間関係、住まいや仕事などの生活状況、利用可能な制度・サービス

個人因子 個人の年齢や性格、体力、ライフスタイル、経験

精神障害者が置かれてきた歴史的背景

年	背景
1900年～	自宅内で行動を制限する「私宅監置」が法律で認められていた。
1950年～	治療と保護の対象として入院治療が優先されるようになった。
1960年～	精神障害者が地域で米大使を刺傷させた事件(ライシャワー事件)、が発生し、社会が危険な存在と認識。 * 精神衛生相談員制度、通院医療費公費負担制度が創設された * 精神科特例制度により、精神科病床が増大した * 偏見・差別により、地域の監視体制が強化され地域から切り離された

精神障害者が置かれてきた歴史的背景

年	歴史的背景
1970年～	精神科病院での暴行事件をはじめとする人権侵害事件が発覚。 ＊ 人権擁護を求める声が高まり、法整備が始められる。
1990年～	障害者の範囲に精神障害者が含まれる。 身近な保健サービスが市町村に。 ＊ 精神障害者のための手帳制度や社会復帰制度が創設
2000年～	小学校での無差別殺傷事件が報道され、精神障害者への誤解や偏見、社会からの厳しい見方が強まる。 住まいの場の確保など地域の受け入れ条件が整えば退院可能な者約7万人の解消などを図るべく、精神保健医療福祉体系の再編と基盤強化が進められる。 ＊ 「入院医療中心から地域生活中心へ」が政策理念に。

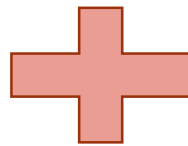
- 精神疾患・精神障害の無理解から、人々からの差別や偏見に苦しんできた
- 入院医療の充実を図ることが政策として主に取り組まれてきた
- 地域の支援制度の整備が遅れ、当事者の生活を社会全体で支えるべきところも家族が中心となって支え続けてきた



あたりまえのように地域で暮らすことを
社会によって制限されてしまっていた。

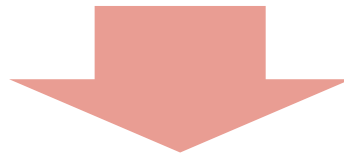
ノーマライゼーション

障害がある人々を「ノーマルな人にする」のではなく、
社会がその障害を受容して、障害の有無に左右されない
「ノーマルな生活環境にする」こと



ソーシャルインクルージョン

社会的に弱い立場にある人々を含め、誰一人取り残さず、
すべての人が地域社会に参加し、共に生きていくこと



地域共生社会の実現

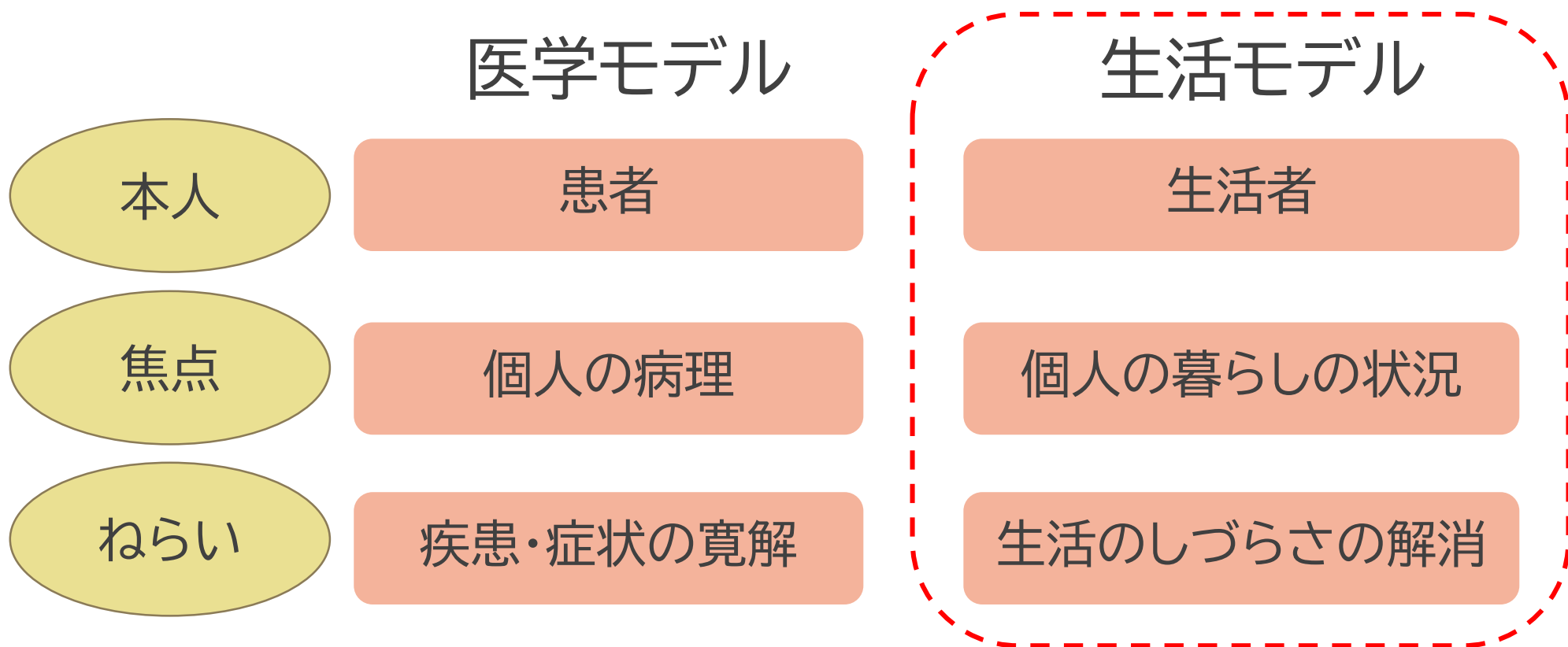
地域精神保健福祉活動の基本方針

地域生活支援を念頭に置く

「入院での医療」中心から、「地域での生活支援」中心へ

精神疾患や障害が重いと考えられる人も含め、その人が暮らす拠点は
住み慣れた地域であると、支援者とともに住民が認識できることを目指す

個別支援における2つの捉え方



生活の質の向上により、その人らしい暮らしが営めることを共通の目標として、相互のモデルは補完し合っていくものである。

*社会モデルは、障害者等が平等に参加できるように社会的な障壁を除去するなど、社会の制度や風土を変革する考え方

相談者の基本的な捉え方

<相談支援の対象>

- 精神障害がある者
- メンタルヘルスの課題を有する者

精神障害等を
有する者

<捉え方>

我が街で暮らす一人の住民が、多様な希望・意向を持ちながらも、精神疾患や社会環境によってもたらされる生活のしづらさを抱えていて困り、苦しんでいる。

精神障害等を有する者への支援は、住民への健康増進のための支援、生活環境の改善に向けた支援の延長線上にある

講義1 まとめ

- 地域共生社会の実現に向けて、精神保健福祉相談員は主に精神障害者やメンタルヘルスの課題を有する者への支援を行う。
- そのような人々が支援や制度からこぼれ落ちてしまったり、社会から排除されてしまったりすることがないように、地域生活支援を念頭に置いた支援を行っていく必要がある。

参考文献・資料

- 地域精神保健医療福祉体制の機能強化を推進する政策研究(研究代表者:藤井千代)精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に関する研究(分担研究者:野口正行)編『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の手引き-地域共生社会を目指す市町村職員のために(詳細版)』2022.
- 障害者福祉研究会編『ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版』中央法規出版,2002.
- 河東田博『ノーマライゼーション原理とは何か: 人権と共生の原理の探究』現代書館,2009.
- 谷中輝雄『生活支援-精神障害者生活支援の理念と方法-』やどかり出版,1996.
- 池淵恵美『こころの回復を支える 精神障害リハビリテーション』医学書院,2019.
- 住谷茂監修「ソーシャルインクルージョン辞典」『ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア シンク』<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/encyclopedia/>

ご視聴ありがとうございました。

続いて、【講義2】

精神障害者の権利擁護と自治体政策の基本的枠組みの動画をご覧ください。